

日本口腔 ケア学会

会報

Vol.4-No.1

発行：一般社団法人 日本口腔ケア学会事務局 〒464-0057 名古屋市千種区法王町2-5 G-10E Email:office@oralcare-jp.org FAX:052(784)5202

退任のあいさつ

4月に名古屋で開催された第16回日本口腔ケア学会を成功裏に終えることができまして、感謝の気持ちでいっぱいです。

平成4年に産声を上げ、27年。長く、研究会の会長から学会の理事長を務めさせていただきました。これも、ひとえに皆様方のおかげかと存じます。後継は、愛知学院大学歯学部教授夏目長門先生に決まりました。よろしくお願い申し上げます。

日本口腔ケア学会 平成3年日本口唇口蓋裂協会 昭和50年口唇口蓋裂親の会(私の専門は、口唇口蓋裂です。親の会とともに、歯列矯正を保険適応にし、言語聴覚士の身分法の制度化に)71歳の私の人生の半分以上を、かかわってきました。今は、訪問診療です。本格的には昭和55年愛知県内で在宅歯科医療連絡会を設立しました。以後、愛知県歯科医師会は、行政から数億円の助成金を得ました。

さて、学会の生い立ちを述べさせていただきます。平成2・3年、看護教育カリキュラムが10%削減され、歯科口腔分野が大幅に縮小されてしまいました。その状況に危機感を抱いた尼崎看護専門学校の教務から、私に相談が寄せられました。そこで、全国の看護師養成校を調査したところ、厳しい状況に。愛知県歯科医師会では、緊急に、愛知県内の看護教育協議会の教務主任の方と相談し、看護学校、准看護学校、衛生看護科の先生方に対し研修会を開催し、歯科口腔分野の教育時間を確保していただくようお願いしました。同時に、愛知県歯科医師会では、500万円越える予算で、「口腔ケア」朝日出版社1991年、10000部刊行しました。

執筆は、看護大学、看護師養成校、厚生省、文部省、行政、養護学校、医師、歯科医師 薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、介護関係者など、幅広い方々です。口腔ケアの必要性は、関連図で示しました。また、授業が行いやすいように指導教授案例を巻末に添付しました。その時以来、厚生省看護課長、矢野さん、久常さん、また、看護系国会議員、日本看護協会関係の方々にお世話になっています。

いまでも、当時の「口腔ケア」を越える書籍は見当たりません。関連図の部分を2016年に、大幅に手直しして刊行しました。そして(社)日本口腔ケア学会は、会員数7,600人になりました。

来年は、長崎大学、再来年は東京大学、(株)日本口腔ケア協会では、学術大会を、旭川医科大学はじめ大阪歯科大学、自治医科大学、JR 東京総合病院、金沢大学で、開催予定です。同時に認定試験を実施いたします。詳細は、HPをご覧ください。

6月8日に、仙台で開催されます日本老年医学会で、高齢者の性と介護のシンポジウムの座長を、長寿医療センターの遠藤英俊先生とさせていただきます。演者は、現場の状況を、把握してみえる方々をお願いし、フォロワーから、指名発言として現場に精通されてみえる方をお願いしました。同日、日本老年歯科医学会が開催されています。では、今までの様に、今後ともよろしくお願い申し上げます。

(一社)日本口腔ケア学会 名誉理事長

名古屋市守山区守山3-3-15

(医)鈴木歯科医院 鈴木俊夫 052-791-2875

<http://www.ne.jp/asahi/suzuki/dental-clinic/index.htm>

(社)日本口腔ケア学会：<http://www.oralcare-jp.org/>

F B：https://www.facebook.com/toshio.suzuki.96?ref=tn_tnmn

インスタ：toshio_suzuki_dentai

眺めてみてください…

